№25

地域の「やってみたい」を応援する情報誌

みんなで

まちのお店を応援しよう

コロナ禍で苦境に立たされている飲食店や商店。
今号では特に飲食店にフォーカス。そこには、地域や仲間とのつながりを礎に
工夫を重ね、懸命に模索を続ける店主たちがいました。
これまで地域のにぎわいや交流を支えてきた店の灯りを、今消すわけにはいきません…。

四街道市
みんなで
地域づくり
センター

にぎわいを支えてきた飲食店の取り組み

テイクアウト共同企画イベントの手伝いをする子どもたち

変わる日常の中で

この春、私たちは新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を受け、誰もが経験したことのない長期の自粛生活を求められました。日常生活や経済が負った傷は深く、癒えるにはまだまだ時間がかかりそうです。そして提唱される「新しい生活様式」では、私たちが人や地域とどう向き合っていけばいいのかが問われています。

これまで地域のにぎわいや交流を支えてきた飲食店は、どのような状況にあるのでしょうか。またこの危機を乗り越えるために、どんな対策を講じているのでしょうか。200店舗を超す市内飲食店の中から、店主の思いや取り組みをいくつかご紹介します。

店主たちの模索

四街道駅前でお好み焼き店を営む加藤真裕さん。コロナ禍により売り上げは激減。他店同様、休業やアルバイト店員の一時帰休を余儀なくされました。打開策として4月からランチのテイクアウトを開始し、限定メニューを販売しました。

窮状の中でも加藤さんが大切にしたのは「つながり」。地元のイベントとして定着しつつある「四街道グルメチックフェスティバル」の仲間などに声を掛け、フリーペーパーに共同広告を出しました。以前から顔を出していた、駅前の飲食店主がまちの将来を語り合う勉強会への参加も続けました。

平成27年からベーグル店を経営する芝﨑正和さんは、別の視点から事態を分析・対応しています。「リモートワークや休校によって中食（なかしょく）やランチにスポットが当たり、皆さんが地元でお金を使うことが日常的になりました。今日はどこで買おうか…と」。そこで来店者が商品を待つ時間に注目し、行き場を失った給食用の野菜や地元のハンドメイド作家の販売コーナーを店内に作りました。

さらに現在、加藤さん、芝﨑さんが注目しているのが「デリバリー」。外食に不便な地区や高齢者の集う場所に「食の楽しみ」を届けたい、食べ物以外に見守り確認などのプラスαのサービスを加えたい、とそれぞれの思いが広がる中で実現に向けて別の主体との話し合いも始まっています。デリバリーは、地域課題解決の手掛かりにもなりそうです。

「おいしい」で
地域をつなごう

よつまちマルシェ
さきめし四街道
http://4machi.com/

さまざまな弁当が店頭を彩ったチキチキサタデイ

四街道の飲食店や店舗は、かつてのまちのにぎわいを取り戻すことと店舗同士がつながることが求められているのではないでしょうか。

その必要性を感じていた加藤さんたちの勉強会では、人とまちを笑顔でつなぐための具体的なアイデアを出し合うことになり、今年2月、駅前で「チキチキサタデイ」がスタートしました。メンバーの一人がさばいた鶏肉を共通材料にして、近隣の飲食店が腕を振るいあった弁当を販売します。個性豊かな内容と味でたちまち人気となり、直後の自粛生活も相まって、現在は近隣の名物イベントとなっています。

一方、6月にはイタリア料理店と和菓子店が「楽しいヒトトキ♡」をコンセプトに共同でテイクアウト企画を開催。限定メニューを用意し、それぞれがSNSで情報発信したところ、雨の日だったにもかかわらずたくさんの人が集まりました。会場では、開店準備や会計を助け合う店主や子どもたちのお手伝いチームの奮闘する姿が見られ、日頃から商いを越えた温かな交流が続いていることが伝わりました。

さらにこの夏「後で食べに行くよ！だからこの苦しい時期をみんなで一緒に乗り越えよう」と駅前の飲食店を中心に結成した「よつまちLabo」が、市のバックアップを受け、市内の飲食店舗応援サイト「よつまちマルシェ　さきめし四街道」を立ち上げました。利用者が食事代をインターネット決済で先払いすれば、店舗は早目に資金を確保することができる仕組みです。

サイト運営の代表を務めるのは先述の芝﨑さん。「市内の店舗が出そろって、この危機を乗り越えようと一体感をもつことができました。サイト開設を機会に、みんなで四街道のおいしいを共に守っていければいいなと思います」

好きな店を応援しませんか

「ウィズコロナ」。人々や地域の中で交わりながら緊密な関係をつくる時代から、「個」でいることが基本になる時代へと移っていくといわれています。

一人だけれど、心はつながっていたい―これからの私たちの願いに「食」は重要な役割を担ってくれるはずです。おいしいものは私たちを元気にしてくれます。人や地域がつながるための話題を提供し、きたるべき新しい日常を生きていくための糧になります。

取材した皆さんは、以前から顧客を仲間を、そして地域を大切にしてきました。日頃から築いてきたつながりが、テイクアウトやその共同企画、そして「よつまちマルシェ　さきめし四街道」の活動の礎となり、継続する力の源になっています。

コロナ禍で大変な状況にあっても、このまちには「地域をつないでいきたい」「四街道をおいしいもの、笑顔があふれるまちにしたい」と気概に満ちた店主たちがいるのです。

あなたの好きな店、身近な店を応援しませんか。

ピックアップ①

市民団体スキルアップ講座
市民団体の寄付集め
～お金だけでなく、想いも集める～

6月20日、7月4日にファンドレイザーの関雄（せきゆう）さんを講師に迎えて市民団体の寄付集めの講座を開催。1日目17人、2日目21人が参加しました。

1日目はそれぞれの団体が「寄付を集める目的を明確にすること」「支援者へ寄付がどのように地域の役に立ったのか感謝とともに伝えること」が寄付集めのポイントとなることを学びました。また寄付を集めるツールの紹介があり、それぞれの特徴を知ることができました。

2日目は身近にいる支援者を募るためにはどうしたらよいか、グループワークを行いました。自分の団体の情報基本シートを作成し、支援者とコンタクトを取るために適切なツールは何かを近くの席の人と話し合いました。

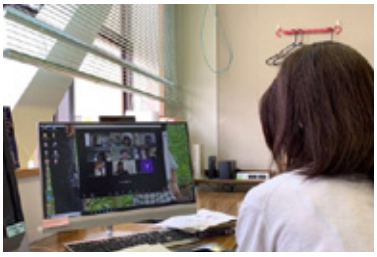
講座終了後はこれからの資金調達について、伴走支援を視野に入れた個別相談会を行いました。

参加者からは「寄付集めのイメージがついた」「シートを書き込みながら、隣の人たちと話したことで気づきがあった」等の感想が寄せられました。

すでに活動されている人にとっても今までの振り返りの機会となったようです。

ピックアップ②

Zoom座談会
「今を語り、明日をつくろう」



コロナ禍により市民のみなさんが感じていること、そして地域で何ができるのか…そんな思いを共有するため、オンラインの座談会を開催しました。

まずは「思いを分かち合う」をテーマに5月中旬に2回開催。合計17人が参加しました。普段はセンターへの来所が難しい人の参加もあり、その結果年齢層も広く、活発な意見交換となりました。

コロナウイルスの影響もまだまだある中前向きな発言が多く、地域の人とつながり続けるための新たなツールや情報発信を！という意見や安心安全な居場所の情報やアイデアも伺うことができました。

次に「地域のために思いを結ぶ」をテーマに6月初旬に2回、地域活動を実践している11人による座談会を行いました。それぞれが実践者としてアイデアを出し合い、それを深めていきました。

座談会終了後、大学生がWEBで発信している「よつまちラジオ」を市内の飲食店で流すなど、参加者同士の新たなつながりや取り組みもスタートしています。

さまざまな立場の人との場の共有は新たな視野の広がりにつながり、その可能性を感じた座談会となりました。

おしらせ

令和2年度 コラボ塾
～地域に元気をつくりだす！～
を開催します

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度「コラボ四街道」を活用した地域づくりや地域の課題解決を図るための学びの場「コラボ塾」を開催します。春から続く自粛のなかで停滞している活動。不安を減らし、新たな地域課題にも取り組めるようコラボ四街道採択事業の紹介も交えて学び合います。

日時　：①9月3日（木）　②9月17日（木）　③10月1日（木）
　　④10月15日（木）　⑤令和3年1月21日（木）
　　いずれも9:30−12:00

場所　：①四街道市文化センター 203号室
　　②～⑤みんなで地域づくりセンター

内容　：①公開講座「コロナ禍でのこれからのボランティア活動を考える」
　　②～⑤企画提案のためのアイデア出し、ニーズの把握、
　　提案書の書き方、模擬プレゼンテーションなど

参加費：無料

参加申し込み・問い合わせは
下記みんなで地域づくり
センターまで

みんなで25号

表紙の写真：テイクアウト共同企画を実施した「GOCHI」と「IZUMINO」の皆さん

編集・発行：四街道市みんなで地域づくりセンター（四街道市政策推進課分室）
所在地：四街道市大日396　四街道市文化センター1階
開館日時：火－金9：00−20：00／土9：00−17：00（休館は日・月・祝日・年末年始）
電話：043（304）7065　メール：info@minnade.org
発行日：令和2年9月1日　発行部数：4500部